

七尾市ごみ処理施設整備・運営事業

審査講評

令和2年5月26日

七尾市

七尾市ごみ処理施設整備・運営事業 審査講評

目次

第1章 事業概要.....	1
1. 事業名称.....	1
2. 対象となる公共施設等の種類.....	1
3. 公共施設等の管理者等の名称.....	1
4. 公共施設等の概要.....	1
5. 事業方式.....	1
6. 事業期間.....	1
第2章 審査方法等.....	2
1. 事業者の選考方法.....	2
2. 落札候補者選考までの経過.....	2
3. 新ごみ処理施設整備運営事業者選考委員会の設置.....	2
4. 選考委員会の開催経過.....	3
5. 落札候補者決定手順.....	4
6. 審査手順.....	5
第3章 落札候補者選考結果.....	8
1. 資格審査.....	8
2. 提案書の基礎審査.....	8
3. 提案書に関するヒアリング及び定量化審査.....	8
4. 入札価格の定量化審査.....	9
5. 総合評価点の算定方法.....	10
6. 落札候補者の選考.....	10
7. 審査の講評.....	10
第4章 総評.....	12

第1章 事業概要

1. 事業名称

七尾市ごみ処理施設整備・運営事業

2. 対象となる公共施設等の種類

一般廃棄物処理施設

3. 公共施設等の管理者等の名称

七尾市長 不 嶋 豊 和

4. 公共施設等の概要

(1) 名称

一般廃棄物処理施設（ごみ処理施設）

(2) 建設予定地

所在地 : 石川県七尾市吉田町テ部33番地

(ななかりサイクルセンター敷地内、旧第1衛生処理場跡地)

事業用地面積 : 約0.58ha

(3) 施設の概要

処理方式 : 全連続燃焼式焼却炉(ストーカ方式: 揺動式、階段式又は逆動式に限る。)

処理能力 : 70t/日(35t/24h×2炉)

処理対象物 : 本市及び中能登町から排出される燃えるごみと硬質プラスチック類

5. 事業方式

本事業は、DBO方式により実施する。

本市は、本施設の設計・建設及び運営・維持管理に係る資金を調達し、本施設を所有する。

落札者のうち、建設事業者となる者は、本施設の設計・建設業務を行う。

なお、本市は、本施設を30年間以上にわたって使用する予定であり、30年間以上の使用を前提として設計・建設業務を行うものとする。

また、運営事業者となる者は、20年間の運営期間にわたって本施設の運営・維持管理業務を行うものとする。

6. 事業期間

事業期間等は、次のとおりとする。

事業期間 : 事業契約締結日から令和25年3月31日まで

設計・建設期間 : 事業契約締結日から令和5年3月31日まで

運営・維持管理期間 : 令和5年4月1日から令和25年3月31日まで

(準備期間 : 事業契約締結日から令和5年3月31日まで)

第2章 審査方法等

1. 落札候補者の選考方法

事業者の選考方法は、総合評価一般競争入札方式により実施した。

2. 落札候補者選考までの経過

落札候補者選考までの経過は、表1のとおりである。

表1 落札候補者選考の経過

日時	内容
令和元年(2019年)	
10月31日(木)	入札公告
10月31日(木)	入札説明書等(入札説明書、要求水準書、落札者決定基準、様式集、基本協定書(案)、基本契約書(案)等)の公表
11月11日(月) ～11月12日(火)	現地見学会
10月31日(木) ～11月15日(金)	入札説明書等に関する質問受付(第1回)
11月22日(金)	入札説明書等に関する質問回答(第1回)
11月25日(月)	参加表明書及び参加資格確認審査申請書類の提出期限
12月9日(月)	参加資格確認審査結果の通知
12月9日(月) ～12月20日(金)	入札説明書等に関する質問受付(第2回)
令和2年(2020年)	
1月10日(金)	入札説明書等に関する質問回答(第2回)
2月14日(金)	提案書提出期限
3月12日(木)	提案内容改善指示(技術対話)
3月23日(月)	改善提案書提出期限
3月23日(月)	入札書提出期限
4月27日(月)	提案書類に関するヒアリング
4月27日(月)	提案書の定量化審査
4月27日(月)	開札、入札価格の定量化審査
4月27日(月)	落札候補者の選考及び公表
4月28日(火)	落札者の決定及び通知

3. 新ごみ処理施設整備運営事業者選考委員会の設置

提案審査は、公平性及び透明性を確保し、専門的知見に基づく評価を行うことを目的に学識経験者2名を含む7名の委員により構成される「新ごみ処理施設整備運営事業者選考委員会」(以下「選考委員会」という。)において行った。

【委員の構成】

第1回

◎	川崎 寧史	金沢工業大学 建築学部 教授
○	楠部 孝誠	石川県立大学 生物資源工学研究所 講師
	岡野 崇	七尾市副市長
	廣瀬 康雄	中能登町副町長
	橘 茂樹	七尾市市民生活部長
	粟津 輝夫	七尾市建設部長
	道善まり子	中能登町保健環境課長

※ ◎：委員長、○：副委員長

第2回～第3回

◎	川崎 寧史	金沢工業大学 建築学部 教授
○	楠部 孝誠	石川県立大学 生物資源工学研究所 講師
	岡野 崇	七尾市副市長
	廣瀬 康雄	中能登町副町長
	橘 茂樹	七尾市市民生活部長
	三野 助樹	七尾市建設部長
	道善まり子	中能登町保健環境課長

※ ◎：委員長、○：副委員長

4. 選考委員会の開催経過

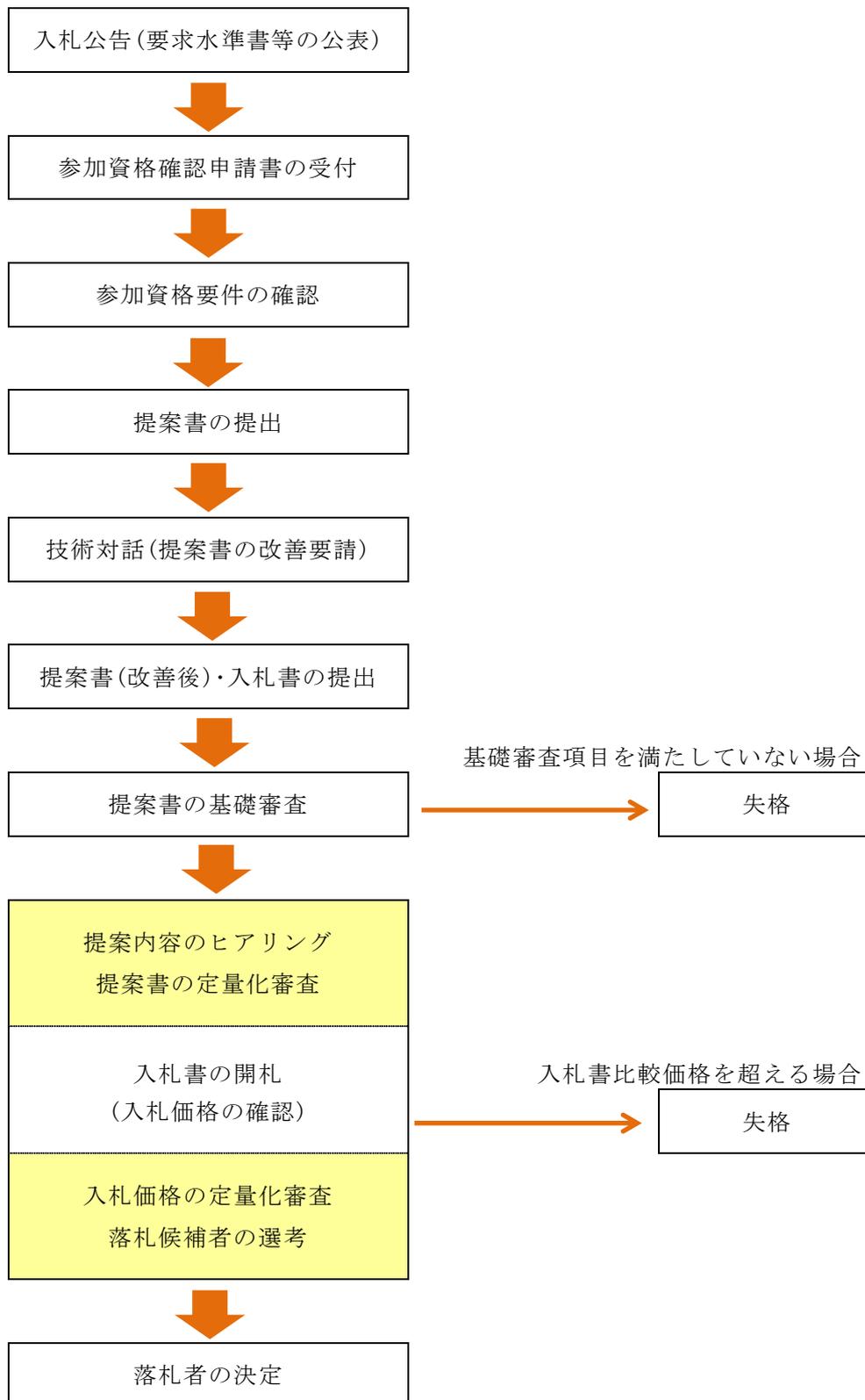
本事業の選考委員会の開催経過は、表2のとおりである。

表2 選考委員会の開催経過

日時	内容
令和元年10月 2日(水)	第1回 選考委員会 (事業概要及び落札者決定基準に関する審議)
令和2年 4月16日(木)	第2回 選考委員会 (提案内容に関する事前確認及び提案書のヒアリング方法について)
令和2年 4月27日(月)	第3回 選考委員会 (事業者ヒアリング、提案書の定量化審査、開札、入札価格の定量化審査、総合評価点の算定、落札候補者の選考)

5. 落札候補者決定手順

落札候補者決定の手順は、図1のとおりである。



注1) 提案書の基礎審査において失格となった者の提出した入札書は、開札しない。

注2) 選考委員会の事務は、図中の着色した項目である。

図1 落札者決定基準の手順

6. 審査手順

(1) 参加資格審査

参加資格審査は、選考委員会の事務局において、入札参加希望者が提出した参加資格確認申請書により、入札説明書に記載した入札参加者が備えるべき参加資格要件(以下「参加資格要件」という。)に満たしていることを確認した。

(2) 提案審査

ア 提案書の基礎審査

提案書の基礎審査は、選考委員会の事務局において、提案書に記載された内容が落札者決定基準に示す基礎審査項目を満たしていることを確認した。

確認内容は、表3のとおりである。

表3 基礎審査確認内容

確認項目	内容
提案書の確認	・ 提出された提案書がすべて揃っていること。
提案書の基礎審査	・ 提案書の内容が要求水準書に示す要求水準を満たしていること。 ・ 入札説明書及び様式集に示す提案書の作成に関する条件を遵守すること。 ・ 提案書全体について、同一事項に対する2通り以上の提案又は提案事項間の齟齬、矛盾等がないこと。

イ 提案書の定量化審査

選考委員会は、提案書に記載された内容について、落札者決定基準に示す審査基準及び得点化方法に従って審査した。

1) 審査項目及び配点

選考委員会は、表4に示す審査項目及び配点を設定し、提案書に記載された内容について審査した。

表4 審査項目と配点

大項目	小項目	配点	
安定性・安全性に優れた施設	安全・安定処理	6点	20点
	効率運転	2点	
	防災対策	2点	
	安定運営	6点	
	リスク管理	2点	
	地域社会への配慮	2点	
周辺環境に調和した環境に優しい施設	景観・意匠	2点	10点
	環境保全	6点	
	環境教育	2点	
循環型社会の形成・地球温暖化の防止に寄与する施設	エネルギー等有効利用	2点	8点
	温室効果ガス排出量の削減	6点	
経済性に優れた施設	安全施工	2点	10点
	配置・動線	2点	
	施設の長寿命化	6点	
地域経済への貢献に資する施設	地元企業の活用	6点	12点
	地元雇用	6点	
計		60点	

2) 審査基準及び得点化の方法

提案を求めている審査項目については、表5に示す5段階評価により評価を行い、表6に示す得点算定式により得点化を行った。

なお、選考委員会には、最終的な評価を行う前に、提案書に関するヒアリングを実施し、提案内容の確認及び質疑等を行った。

表5 審査基準及び得点化方法

評価	審査基準	得点化方法
A	特に優れている	配点×1.00
B	AとCの中間程度	配点×0.75
C	優れている	配点×0.50
D	CとEの中間程度	配点×0.25
E	要求水準を満たす程度	配点×0.00

表6 提案書の得点算定式

提案書の得点算定式	
$\left[\begin{array}{l} \text{当該入札参加者の} \\ \text{提案書の得点} \end{array} \right]$	$= \frac{\Sigma(\text{各審査項目の配点} \times \text{評価})}{\text{委員人数}(7人)}$

ウ 入札価格の定量化審査

入札価格の定量化審査にあつては、入札価格が入札書比較価格を超えていないこと、及び入札価格の内訳である施設建設費に係る金額及び運営・維持管理業務委託料に係る金額が入札書比較価格におけるそれぞれの金額を超えていないことを確認したのち、次の算定式により得点を付与した。なお、得点は、小数第3位を四捨五入した値とした。

入札価格が定量化限度額以下の場合は、当該入札参加者の入札価格の得点は、40点満点とした。

入札価格の得点算定式	
$\left[\begin{array}{l} \text{当該入札参加者の} \\ \text{入札価格の得点} \end{array} \right]$	$= 40点 \times \frac{\text{定量化限度額}}{\text{入札価格}}$
※定量化限度額：入札書比較価格×85%の価格	

エ 総合評価点の算定

「イ 提案書の定量化審査」、「ウ 入札価格の定量化審査」により算定した得点を次式により合計し、当該入札参加者の総合評価点を算定した。

総合評価点の算定式	
$\left[\begin{array}{l} \text{当該入札参加者の} \\ \text{総合評価点} \end{array} \right]$	$= \left[\begin{array}{l} \text{当該入札参加者の} \\ \text{提案書の得点} \end{array} \right] + \left[\begin{array}{l} \text{当該入札参加者の} \\ \text{入札価格の得点} \end{array} \right]$

第3章 落札候補者選考結果

1. 資格審査

令和元年10月31日に入札公告を行い、令和元年11月25日に参加資格審査申請書類を受け付けたところ、次の1グループから申請があった。

本市は参加資格の確認を行い、令和元年12月9日に、代表企業へ参加資格を有することを書面にて通知した。

表7 参加資格審査申請書類提出グループ

グループ名	荏原環境プラントグループ
代表企業	荏原環境プラント株式会社 営業本部
建築物建設企業	真柄建設株式会社 能登営業所
運営企業	株式会社戸田組
受付グループ名	ハチメグループ

なお、選考委員会による審査にあたっては、審査の公平性を期すため、提案書等すべての書類において各グループの企業名は伏せ、表7の受付グループ名で識別して審査を行った。

2. 提案書の基礎審査

令和2年3月23日までに参加資格を有する1グループより提案書等が提出され、基礎審査項目に従って基礎審査を行った。提案書等を提出した1グループは、本市が要求する水準を満足していること等が確認されたため、基礎審査に合格しているものと認めた。

3. 提案書に関するヒアリング及び定量化審査

選考委員会は令和2年4月27日に提案書の定量化審査を行った。審査に際しては、提案書に関するヒアリングを実施し、入札参加者から提案内容の説明や委員による質疑を行った。

定量化審査の審査項目について、適確な提案がなされているか審査を行い、提案書に関する得点化を行った。なお、評価は、本市の要求する水準を満たしたうえで、より優れた提案に対して評価を行う加点方式とした。

審査結果は、表8のとおり。

表 8 提案書の定量化審査結果

大項目	小項目	配点	ハチメグループ
安定性・安全性に優れた施設	安全・安定処理	6点	3.43
	効率運転	2点	1.00
	防災対策	2点	1.29
	安定運営	6点	3.21
	リスク管理	2点	1.00
	地域社会への配慮	2点	1.43
周辺環境に調和した環境に優しい施設	景観・意匠	2点	0.86
	環境保全	6点	4.50
	環境教育	2点	0.93
循環型社会の形成・地球温暖化の防止に寄与する施設	エネルギー等有効利用	2点	0.64
	温室効果ガス排出量の削減	6点	3.00
経済性に優れた施設	安全施工	2点	1.00
	配置・動線	2点	1.07
	施設の長寿命化	6点	3.21
地域経済への貢献に資する施設	地元企業の活用	6点	4.29
	地元雇用	6点	4.07
計		60点	34.93

4. 入札価格の定量化審査

提案書等を提出した入札参加者及び事務局の立会いのもとで令和2年4月27日に開札し、入札価格が入札書比較価格を超えておらず、かつ、入札価格の内訳である施設建設費に係る金額及び運営・維持管理業務委託料に係る金額が入札書比較価格におけるそれぞれの金額を超えていないことを確認した。

選考委員会は、開札結果を踏まえ、入札価格の定量化審査に関する得点化を行った。審査結果は、表9のとおりである。

表 9 入札価格の定量化審査結果

項目	配点	ハチメグループ
代表企業名	—	荏原環境プラント株式会社 営業本部
入札価格計（税抜）	—	13,650,000,000円
施設建設費	—	6,400,000,000円
運営・維持管理業務委託費	—	7,250,000,000円
入札価格の定量化審査の得点	40点	34.08

入札書比較価格 13,681,000,000円（税抜）
 （施設建設費 6,405,000,000円）
 （運営・維持管理業務委託料 7,276,000,000円）

5. 総合評価点の算定方法

令和2年4月27日の「提案書の定量化審査」及び「入札価格の定量化審査」の審査結果を踏まえ、これらの得点を加算して表10のとおり総合評価点を算定した。

表10 総合評価点の算定結果

入札参加者		提案書の定量化審査の得点(A)	入札価格の定量化審査の得点(B)	総合評価点(A)+(B)
受付グループ名	代表企業名			
ハチメグループ	荏原環境プラント株式会社 営業本部	34.93	34.08	69.01

6. 落札候補者の選考

選考委員会は、上記の結果にもとづき、「ハチメグループ（代表企業：荏原環境プラント株式会社 営業本部）」を落札候補者として選考した。

7. 審査の講評

提案書に関する各審査項目についての講評は、表11のとおりである。

表11 審査項目の講評

審査項目		講評
大項目	小項目	
安定性・安全性に優れた施設		
	安全・安定処理	<ul style="list-style-type: none"> 多くの実績を有し、ごみ量・ごみ質の変動に対しても対応が可能であることや、過去の具体的なトラブル事例とその原因、本事業における対策及び技術改善が具体的に示されている点を評価した。 テクニカルサポートシステムによる遠隔支援や保全システム導入による保全支援の提案がなされている点を評価した。
	効率運転	<ul style="list-style-type: none"> 災害廃棄物の受入れ、地域特性を踏まえたエネルギー回収、財政負担軽減に配慮した操炉計画がなされている点を評価した。 トラブル発生時の対応や運転停止の判断基準が具体的に示されている点を評価した。
	防災対策	<ul style="list-style-type: none"> 想定される防災対策について、余裕をもった具体的な対策（設計降雨強度の1.2倍等）がなされている点を評価した。
	安定運営	<ul style="list-style-type: none"> SPCへの融資、経営審査の実施、事業実施のバックアップ体制の確保、想定リスクに対する各種付保内容等、不測の事態への対応が提案されている点を評価した。
	リスク管理	<ul style="list-style-type: none"> 委員会によるセルフモニタリング、設計・建設から運営時に至るまでのリスクマネジメント、リスク管理に関する具体的な対策が提案されている点を評価した。

審査項目		講評
大項目	小項目	
安定性・安全性に優れた施設		
	地域社会への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・災害発生時における付加的な役割を提示するとともに、その内容が具体的に提案されている点を高く評価した。 ・地域活動への参加や住民との意見交換の実施等、地域との信頼関係構築に向けた具体的な取組みが提案されている点を高く評価した。
周辺環境に調和した環境に優しい施設		
	景観・意匠	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺環境に溶け込んだ建築物の意匠等計画(カラー・建物ボリューム配置)を評価した。
	環境保全	<ul style="list-style-type: none"> ・排ガス基準に関して、自主基準値(予鈴値)の設定により要監視基準に至らないよう管理する提案を高く評価した。
	環境教育	<ul style="list-style-type: none"> ・見学者への動機づけにつながる展示設備が提案されている点を評価した。
循環型社会の形成・地球温暖化の防止に寄与する施設		
	エネルギー等有効利用	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー回収率の要件(10%)を上回る回収率(11.2%)が提案された点は評価できるが、年間を通じて効果的かつ省エネにつながる高度な余熱利用方法の提案が期待された。
	温室効果ガス排出量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガス排出抑制対策について具体的な対策が示されており、エネルギー使用に係るCO₂排出量の削減が考慮された提案であることを評価した。
経済性に優れた施設		
	安全施工	<ul style="list-style-type: none"> ・既存施設運営への影響に配慮しつつ、施工手順や施工方法の工夫による効率的な工事工程、管理方法(パトロール体制等)に関する提案がなされている点を評価した。
	配置・動線	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた敷地内で、安全・利便性を考慮した具体的な施設配置、車両動線計画及びサイン計画が提案されている点を評価した。
	施設の長寿命化	<ul style="list-style-type: none"> ・実績にもとづいてLCCを考慮した材質・機器の選定や主要機器の補修計画が提案されている点を評価した。
地域経済への貢献に資する施設		
	地元企業の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・地元企業への発注内容、金額が具体的に示されている上、類似事例に比べて発注金額等が拡充された提案がなされている点を高く評価した。
	地元雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・段階的に地元雇用を拡大して地元雇用率を91%以上とし、地元雇用に係る職種の内訳や人材育成方法、雇用に係る金額を具体的に提案されている点を評価した。

第4章 総評

今回、入札参加者が1グループのみであったことは残念なことであるが、当該グループの提案は、本事業の目的や業務内容について七尾市が要求する水準を上回る内容であった。入札参加者にあつては、提案書の作成やプレゼンテーション準備等において多大な労力及び費用負担があつたことが推察される。そうした中で提案をとりまとめられた入札参加者の熱意に敬意を表するとともに、感謝する。

選考委員会では、落札者決定基準に基づき、技術提案やヒアリング内容を踏まえた提案書の評価及び入札価格の評価を公正かつ厳正に審査した結果、ハチメグループ（代表企業：荏原環境プラント株式会社 営業本部）を落札候補者として選考した。

ハチメグループの提案は、七尾市が掲げた施設整備の基本方針である「安定性・安全性に優れた施設」、「周辺環境に調和した環境に優しい施設」、「循環型社会の形成・地球温暖化の防止に寄与する施設」、「経済性に優れた施設」、「地域経済への貢献に資する施設」を十分に実現することが可能であると判断した。特に評価が高かつた項目は、『地域社会への配慮』、『環境保全』、『地元企業の活用』であつた。

選考委員会の審議においては、上記事項を評価する一方で、ハチメグループ（代表企業：荏原環境プラント株式会社 営業本部）の提案内容に対して次の配慮・要望事項が挙げられた。

- ◆提案された内容の具体的な設計・施工・運営にあつては、七尾市の意向を踏まえ、確実に実施すること。特に雨水の末端処理について対策を施し、下流域の豪雨災害の防止に努めること。
- ◆公害防止基準を確実に遵守し、環境負荷の低減や財政負担の軽減に配慮した施設の実現、運転管理・維持管理を確実に実施すること。
- ◆見学者の動機づけにつながる展示設備の導入だけでなく、持続可能な社会の実現を見据えた環境学習へつながる体験型の環境教育プログラムについても導入を進め、地域における環境意識の醸成に努めること。
- ◆年間を通じて効果的かつ省エネにつながる余熱利用の用途と方法について検討し直し、対外的にも余熱利用の効果や用途・方法等の妥当性が示せるよう、例えばヒートポンプを使った空調(冷房)システムを追加導入するなど、ロードヒーティングに依存し過ぎない余熱利用の用途と方法によってエネルギー回収率を向上させること。
- ◆地元企業の活用や地元雇用に関する提案内容を確実に履行するとともに、地場産材の更なる活用や地元企業の参画を促進し、地元企業の活用や地元雇用について、より一層の拡大に努めること。

最後に、本事業を通じてハチメグループ（代表企業：荏原環境プラント株式会社 営業本部）には、七尾市や地域との信頼関係を築きながら本事業を計画的かつ円滑に進めていくことを期待する。また、上記の配慮・要望事項については、本事業をより良いものとするを前提に、七尾市と十分な協議を行い、真摯な対応に努め、将来にわたり質の高い公共サービスを提供するよう期待する。

令和2年5月

新ごみ処理施設整備運営事業者選考委員会 委員長 川崎 寧史